



SEIKI LINK
—つなぐ想い、ひろがる未来—

中学校通信 第3号

令和8年7月31日（金）発行

文責 福島成蹊中学校・高等学校

中高一貫コース 中学1・2・3学年

盛夏の候、日頃から本校の教育活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。

7月17日（金）に1学期終業式が行われました。1学期80日を生徒たちは、学力向上に部活動に学校行事にと力を注ぐ姿がみられました。また、子どもたちが充実した学校生活を送ることができ、大きく成長することができましたのは、保護者様のご支援があつてこそと心より感謝申し上げます。



世界に誇るFプロジェクト

ふくしまから、未来の当たり前をつくる。

世界に誇るFプロジェクト [@いわき]

—海産物と乳製品から、福島の食の未来を考える—

7月24日（金）に16期生（中学3年生）が、いわき市内4店舗で常磐ものを中心とした鮮魚・刺身・寿司・惣菜・ギフト品を販売している「株式会社 おのざき」様と種類豊富な乳製品の中でも85℃、15分殺菌処理したパスチャライズ牛乳を主力商品に、カフェオレ、フルーツオレ、ヨーグルトなど、いわき市内の宅配・卸事業・ベンダー事業・通販事業を行っている「木村ミルクプラント」様にFプロジェクトとして企業訪問に行つてまいりました。

保護者の方もご存じの通り福島県の浜通り沿岸海域は、親潮（寒流）と黒潮（暖流）がぶつかる豊かな漁場です。黒潮に乗って北上してきた様々な魚が、親潮で運ばれてきたプランクトンを食べて大きく成長する場所であり、古くから「常磐もの」と呼ばれ、目利きの市場関係者から高く評価されている地域です。しかし、15年前の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故により大きな痛手を受けることになりましたが、この地の水産関係者の方々は、風評被害と闘いながら、一步一步復興に向け歩みを続けてきました。そして今、「常磐もの」は水産物の応援消費や水産関係者の努力により再び輝き始めています。

16期生は、直接的に東日本大震災を経験していません。その16期生が、風評被害やコロナ禍を戦ってきた浜通りの企業を訪問することによって、東日本大震災の影響や企業の努力、福島県の誇りを垣間見ることができましたようです。今後この中学生たちがこの素晴らしい福島県の地域資源「常磐もの」を世界ブランドにすることの力になっていくこと、そして福島のパワーになっていくことを期待しています。



～生徒の感想文より～

- ・「株式会社 おのざき」を訪問し、会社の経営や販売方法について学ぶことができました。東日本大震災では安全な商品であっても風評被害によって、とても大きな影響を受けたことやコロナ禍では、様々な判断が求められ、その一つ一つに対応してきたと知り、困難な状況でも挑戦を続けることの大切さを学ぶことができました。
- ・ 東日本大震災で大きな被害を受けた福島の水産物が今では「常磐もの」というブランドとして名を響かせているのは、それだけ多くの努力があったからだと感じることができました。
- ・ 「木村ミルクプラント」ではパスチャライズ製法という製造方法を初めて知りました。まさしくこれは「福島の誇り」でした。この製法で作られたアイスもヨーグルトもとてもおいしかったです。

臨海教室 一海とともに学び、成長する一

7月22日(火)～24日(木)の2泊3日で新潟県胎内市に「臨海教室」に行ってまいりました。

「臨海教室」で、生徒たちは〈自然の雄大さ〉〈命の尊さ〉〈仲間との絆〉を実感して帰ってきました。

もともと日本の学校で水泳の授業が重視されるようにきっかけは、1955年の「紫雲丸事故」でした。当時は泳げない子供が多く、「もし泳げていたら助かった子供がいたのではないか」という世論が高まり、水難防止と命を守る教育の観点から学校で水泳を教える必要性が全国に広まっていったのです。

今回の「臨海教室」で、生徒たちは「浮いて助けを待つこと」「水を怖がらないこと」で「命を守る力」を身につけてきました。そして、レスキューと心肺蘇生法を組み合わせた海の救急法を知ること、安全確保に必要な知識を実践的に学ぶことができ、〈自らの命を守る体験〉〈救助をする〉〈救助をされる体験〉を通して危機管理の大切さを実感することができました。また、救助には仲間と協力して行うことが必要不可欠です。生徒たちはお互いをサポートし合い、役割分担を通じて連携を築くことでより高度な救助が可能になることを知り、仲間との連携やチームワークの重要性を学ぶこともできました。チューブ・リレーやカヌー体験では、新鮮でワクワクする要素が豊富であり、生徒たちは自然と笑顔があふれ絆が深まっていたように思われます。

日本という国は四方を海に囲まれた島国です。古くから海とともに発展し、多くの恩恵を受けてきました。その大切な海のビーチクリーンでは「洗剤の容器やプラスチックごみ・ハングル語の袋等」を目にし拾うことで、海洋汚染の問題などを考えるきっかけになったようでした。最終日は、「バケツをひっくり返したような」の比喩が適切なくらいの大雨に見舞われ海での活動が短縮されてしまいましたが、生徒たちはこの3日間で「命の尊さ」を実感し、「仲間との絆」を深めながら「楽しさ」を味わうことで、充実した経験となり成長した姿で福島に帰ってまいりました。

学校行事は、生徒たちの「成長の場」です。二学期は「尾瀬登山・林間教室・東京地区大学見学研修会」と数多くの学校行事があります。きっと生徒たちは、この学校行事から帰ってくるごとに、大きな成長をして、いい顔をして帰ってくるはずです。帰ってきた日は、じっくりお子様のお顔をみていただき、土産話をたくさん聞いてあげてください。



一連絡事項一

○8月7日(金)～16日(日) 夏季休業 ○8月17日(月)～21日(金) 夏季学習合宿

○8月24日(月) 2学期始業式

○8月29日(土) 第2回学力推移調査

※「令和8年 熊本地震」に対する寄付金・義援金のお願い(特別ボランティア委員会より)

令和8年7月28日午後4時27分ごろ、熊本県熊本地方を震源とする推定マグニチュード7.1の地震が発生し、最大震度7を記録しました。各地で被害が報告されています。少しでも私たちの支援が熊本の人々の力となりますように、ご協力をお願いします。

